

# 死ぬのは 私ではない

#1

『死ぬのは私ではない』は、  
多くの日本人の意識だと思います。

見ていてとても辛かったです。

最初は物理的に、穴に落ちたり、血しぶきがあがったり、目の色だったりがとても恐ろしくて、うわあつとなりました。

独房に入った後の7分裂は、心が痛かったです。

とてもきつかったですが、ものすごかったです。上手くは言えません。

[女性:会社員] 4月27日(火)19:00観劇

日本のジャーナリズムは一点からの視点から見ることが多いと感じる。

80%近くの死刑賛成の背景には、偏りのあるジャーナリズムに原因があると思う。

正しいのか正しくないのか。それは、多方向からの視点で見なければ判断はできないと思う。

それは、死刑制度に限らず、すべてのことに言える。死刑に関しての正しい知識を持つ人は、死刑賛成をしている中で何人いるのだろうか。と、今回の芝居を見て感じた。

[男性] 4月25日(日)14:00観劇

心が混乱しました。一言……ムズカシイです。

よく被害者の遺族が、「同じような犯罪が繰り返されないことを祈る」と言われていますが、今の刑法に犯罪を抑止する力は少ない気がします。犯罪者は社会の病理を抱え込んでいる部分が少なからずあるわけだし、犯罪者の心理や社会システムを徹底的に調べ、考え直し、再犯防止システムを作ることの先に、刑法があるべきではないのか……とか思いました。

[女性] 4月25日(日)14:00観劇

■ -----  
素晴らしかったです。

死刑になるために生まれた、人の心を取り戻すために死刑になった。

人はみんな成長するために、人の心を手に入れるために生まれて、大変な思いをして生きているんだと実感しました。

その後から舞台の世界が自分の可視範囲に広がって引き込まれて、とても素晴らしい体験ができました。

[無記名] 4月23日(金)19:00観劇

■ -----  
テーマが重たすぎて、正直こう言うのは見たくないなあって気持ちと、それでも考えなければならないのだという気持ちと両方あります。

[女性] 4月22日(木)19:00観劇

■ -----  
獣のうちに死刑にというセリフが印象的でした。

でも、やはり人間になって死ぬべきだと私は思いました。

[女性] 4月29日(木)14:00観劇

■ -----  
いやあな芝居ですね、これは。

ノーコメントと答えるのがはばかれるような気持ちになりますよ。

でも、これで死刑廃止論者が我が意を得たりというような顔でしゃべり出すとしたら、もっとイヤだったなあ。そのことはさておくとしても、人間に救いを見出しているのも、いつしか芝居を見てて不快感が変質しているなと思いました。ラスト、首に縄をかけられた主人公が、口元に笑みを浮かべているのがすごくイヤあな気にさせたんですよ、これ。

[男性] 4月24日(土)19:00観劇

■ -----  
集中して観ていたら疲れた。

死刑制度の本を読んでもみようと思いました。

[女性:会社員] 4月29日(木)14:00観劇

■ -----  
私は死刑容認していますが、実際に死刑に立ち会ったり、死刑囚が立ち直った様子を見たときに果

たして同じ考えでいられるか？ 考えさせられた。

[男性：会社員] 4月28日(水)19:00観劇



以前、死刑をモチーフにした映画を観たことがあります。

執行の場面など、映画と舞台では違うけれども、どちらもリアル。

でも、自分は死刑執行場面を見も知りもしないのに、不思議だなと思いました。

確かに、“死刑”でないなら「自分は何のために、死ぬために生まれてきたのか?」とは思えない。

そのセリフにすごく説得力がありました。

[無記名] 4月27日(火)19:00観劇



全体に怖い劇でした。何を思えばいいのかわからない状態です。

なぜ執行から半年以内が守られないのか？ 疑問です。

『死ぬのは私ではない』は多くの日本人の意識だと思います。

[無記名] 4月25日(日)14:00観劇



人が人を裁くのは難しい。死刑が正しいかはわからないが、終身刑もおかしいと思う。

自分は双子でそっくりで、だいたい何考えているのかわかる。他人と思いつつ、もう一人の自分とも思う。

[女性] 4月24日(土)14:00観劇



とても重い内容でした。

しかし当事者が次々と変わることホッとする面と、自分ももしかしたら、その枠の中に入るかもしれないという思いを抱かせます。

死刑囚について書かれている本を読みました。筆者は、死刑寸前に改心する姿を描いて、だから死刑は廃止すべきと言いましたが、私は逆に、死の直前しか反省できない人もいるということで、かえって、死刑の存続についてわからなくなりました。

今も答えは出ていません。こういうテーマは、考えるきっかけとして必要な内容だと思います。

[女性：主婦] 4月22日(木)14:00観劇



何だか……すごい舞台でした。面白かったし、それにとっても怖くもありました。処刑のシーンで始まって

終わるところもすごく印象的だったし。

今まで「死刑」というものを、やっぱり私も現実的なことでもどこか別のところにあることのように、自分には関係のない、それこそ、「死ぬのは私じゃない」からと、特に考えたこともなかったけれど、矛盾さとか曖昧さとかがあることに気づいて、何だかうまくいえないけど、複雑な気分になったり……。

でも、この舞台を見て良かったと思いました。

[女性] 4月22日(水)19:00観劇

とても大きな影響を受けました。

私にとって死刑や殺人事件は無関係で、生活の中で考えようとも思っていませんでしたが、皆さんの公演を通して、自分自身ともっと向き合い、いろいろなことを考え挑戦してみたいと思いました。

[女性:学生] 4月27日(火)19:00観劇

視点が変わることで、また別の見方もあるのだと改めて思いました。

心理描写が面白かったです。

[無記名] 4月26日(月)19:00観劇

犯罪って被害者、加害者と関わる時、人は本当に変わるんだろうかということをとっても考えます。私としては、人をそこまで信じていることができないのが正直なところですが、死刑制度を考える際、あまりにも実態を知らなさすぎることも非常に大きく関係していると思います。

刑務官(国家公務員)が執行することはいいのかと問われたとき、仕事だから当然と思っていましたが、今回の舞台などを見て大変揺れます。

いろいろと考えることがたくさんあります。その機会をいただいたことに感謝します。

[女性:公務員] 4月25日(日)14:00観劇